

(様式第9)

番 香大医
平成23年

四国厚生支局長 殿

開設者名 国立大学法人
長尾 省

香川大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成22年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	76人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	212人	76人	271.1人	看護補助者	0人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	5人	7人	10.8人	理学療法士	8人	臨床検査技師	33人
薬剤師	24人	4人	28.0人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	5人	その他	0人
助産師	31人	0人	31.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	498人	40人	531.6人	臨床工学技士	7人	医療社会事業従事者	5人
准看護師	0人	0人	0.0人	栄養士	0人	その他の技術員	5人
歯科衛生士	1人	0人	1.0人	歯科技工士	1人	事務職員	103人
管理栄養士	6人	1人	7.0人	診療放射線技師	28人	その他の職員	19人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	470.0人	6.9人	476.9人
1日当たり平均外来患者数	887.4人	35.2人	922.6人
1日当たり平均調剤数			605.1剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	自己免疫性血球減少症に対するリツキシマブ投与	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 溶血性貧血、血小板減少性紫斑病、血栓性血小板減少性紫斑病などの血球減少症に対するリツキシマブ投与			
医療技術名	F-FDG PET検査	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 心サルコイドーシスにおける、心筋炎症の評価を行うもの。診断、治療効果判定を行うもの。			
医療技術名	大動脈内バルーンパンピング法	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 低左心機能症例に対して左室補助を行うもの。			
医療技術名	経皮的心肺補助	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 低左心機能症例、致死性不整脈、肺循環障害症例に対して心肺補助を行うもの。			
医療技術名	経管腔的内視鏡手術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 軟性内視鏡を用いて、胃壁外から腹腔内へ侵入し、胃壁全層切除、胆摘、虫垂切除等の手術・切除する超低侵襲手術			
医療技術名	経頭蓋磁気刺激法による運動機能の評価	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 磁気刺激により経頭蓋的に皮質運動野を刺激し、運動ニューロンの機能障害について評価を行う。			
医療技術名	起立負荷後のAVP反応を用いた自律神経障害の評価	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 起立負荷時のAVPの反応性を基に、中枢性自律神経障害の鑑別を行っている。			
医療技術名	皮膚悪性腫瘍の色素法、RI法併用によるセンチネルリンパ節生検	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 色素法とRI法を併用し、確実にセンチネルリンパ節を同定し、切除する。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	皮膚悪性腫瘍の集学的治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 皮膚悪性腫瘍の手術、化学療法、放射線治療、緩和ケアなどによる治療。			
医療技術名	悪性黒色腫の5S-CD値によるフォロー	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 腫瘍マーカーである5-S-CD値を定期的に測定し、経過フォローに役立てる。			
医療技術名	乾癬患者に対する生物学的製剤(抗TNF- α)による治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 乾癬患者に対し、生物学製剤を用いて治療を行う。			
医療技術名	新しい光源による新生児高ビリルビン血症に対する光療法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 LED光源を用いた、ビリルビンを体外排出型に構造変化させる新しい新生児高ビリルビン血症に対する、より効果的な光療法を行う。			
医療技術名	ビリルビンの精密解析	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 ビリルビンの光異性体、抱合体を高速液体クロマトグラフィーを用いて高精度分析し、新生児高ビリルビン血症の病因、治療効果判定に用いる。			
医療技術名	光学的非侵襲的脳代謝・循環の測定	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 神経学的後遺症の軽減を目的とした、近赤外分光測定法を用いて、新生児の脳循環、代謝を評価。			
医療技術名	新生児溶血性黄疸に対するガンマグロブリン療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 高度新生児黄疸の原因となる溶血性黄疸を、非侵襲的に光を利用した黄疸計で早期に発見し、光療法と共にガンマグロブリン療法を行い、交換輸血を回避させる治療。			
医療技術名	脳分離循環を伴う胸部大動脈瘤手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 脳分離循環を伴う胸部大動脈瘤の手術			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	末期的心臓病に対する外科手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 人工心臓・心臓移植の適応を考慮する末期的心臓病患者に対する僧帽弁手術・左室形成術			
医療技術名	Hybrid NOTESによる胃GIST切除	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 胃粘膜下腫瘍に対して、内視鏡と腹腔鏡を併用した手術により、腫瘍を低侵襲下に切除する。			
医療技術名	Single Port Surgery を用いた胆嚢摘出術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 単孔式腹腔鏡手技により、胆嚢摘出を行い、患者の負担を軽減する			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 腹腔鏡手技を用いて低侵襲下に肝切除術を施行する。			
医療技術名	赤外光胸腔鏡による気腫化病変の切除	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 赤外光胸腔鏡を使用し、肺の気腫化病変や肺区域の同定を行っている			
医療技術名	気管、気管支形成を伴う肺切除	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 気管・気管支の癌を、形成術を使って治療する			
医療技術名	肺癌患者に対する遺伝子解析に基づいた化学療法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 肺癌に対し、遺伝子解析を行い、これに基づいた化学療法を施行する。			
医療技術名	乳房再建を伴う、乳癌手術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 形成外科と協力し、乳房再建を伴う、乳癌に対する手術を行う。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	関節リウマチに対する手術的治療	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要 関節リウマチに対する手術的治療			
医療技術名	悪性骨軟部腫瘍に対する患肢温存手術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 悪性骨軟部腫瘍に対する患肢温存手術			
医療技術名	大腿骨頭壊死症の手術療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 大腿骨頭壊死症の手術療法			
医療技術名	皮膚、筋、骨など血管付多臓器移植術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 皮膚、筋、骨など血管付多臓器移植術			
医療技術名	人工股関節術後の高度骨欠損に対する再置換術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 人工股関節術後の高度骨欠損に対する再置換術			
医療技術名	陰茎海綿体神経再生による勃起能回復を目的とした神経移植術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 前立腺癌の手術療法の大きな副作用の1つに勃起不全があり、QOLを損なう原因となる。その対策として、腓腹神経の自家移植を行い、勃起機能の回復を図る。			
医療技術名	前立腺癌に対する3D-CRT原体照射の精度向上を目的とした前立腺内金球マーカー埋め込み術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 外照射療法において、副作用軽減のために、あらかじめ前立腺内に金属のマーカーを留置する。その動きを観察し、補正することによって、効率的かつ安全な照射が可能となる。			
医療技術名	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 腹腔鏡を用い、明るい拡大視野でより緻密な手術ができる。 さらに、創が小さいことにより、早期の社会復帰も可能となる。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	重症脳卒中及び重症頭部外傷患者に対する脳低温療法	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 重症脳卒中及び、重症頭部外傷患者に対して、脳保護を目的とした脳低温治療。			
医療技術名	悪性脳腫瘍患者に対する抗癌剤耐性遺伝子の検討による抗癌剤の選択	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 悪性脳腫瘍患者に対する抗癌剤耐性遺伝子を検索することにより、個々の患者に効果のある、さらに副作用の軽減を目的とした治療である。			
医療技術名	脳神経外科手術に対する術中ナビゲーション	取扱患者数	62人
当該医療技術の概要 手術において術中ナビゲーションを用いることで、摘出部位の把握や摘出範囲の状況、さらに電気刺激部位の確認による機能温存を考慮した治療法である。			
医療技術名	液体塞栓物質を用いた脳動静脈奇形の血管内手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 脳動静脈奇形に対して液体塞栓物質を用いて治療を行う。			
医療技術名	硝子体手術(増殖硝子体細胞症手術)	取扱患者数	200人
当該医療技術の概要 増殖硝子体細胞症に対して、高度な手術技術を要する手術である。			
医療技術名	人工内耳	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 高度難聴症例(小児、成人)の聴覚言語獲得及び、使用のために人工内耳埋込術を施行し、術後、言語のリハビリを行っている。			
医療技術名	肝癌に対する肝動脈塞栓療法	取扱患者数	49人
当該医療技術の概要 肝癌に対して肝動脈塞栓手術を行う。			
医療技術名	肝・骨盤部悪性腫瘍に対するリザーバー設置術	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 肝・骨盤部悪性腫瘍に対するリザーバー設置術。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	高進ヘリカルCTによる3次元画像	取扱患者数	1010人
当該医療技術の概要 高進ヘリカルCTによる3次元画像。			
医療技術名	低体温療法	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 心停止後脳障害、重症頭部外傷、重症くも膜下出血、等の患者の二次性脳障害を軽減するために24-7 2時間34-35℃で体温管理を行う。			
医療技術名	院外心肺停止患者に対する遠心ポンプを使用した循環補助による蘇生	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 院外心肺停止患者に対する高度な二次救命処置の最終手段として遠心ポンプを使用した循環補助を行 い、これに低体温療法および経皮的冠動脈形成術を組み合わせることで蘇生を行う。			
医療技術名	口腔癌における再建手術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 口腔癌における再建手術			
医療技術名	口腔癌における超選択的動注化学療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 口腔癌における超選択的動注化学療法			
医療技術名	歯の欠損に対する口腔インプラント治療	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 歯の欠損に対する口腔インプラント治療			
医療技術名	内視鏡下唾石摘出術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 内視鏡下唾石摘出術			
医療技術名	内視鏡下歯根端切除術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 内視鏡下歯根端切除術			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	免疫抗体によるHER2染色	取扱患者数	80人
当該医療技術の概要 転移性乳癌や乳癌術後および進行・再発胃がんの補助化学療法			
医療技術名	EBER in situ hybridization検査	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 バーキットリンパ腫、上咽頭癌、ホジキンリンパ腫、T/NKリンパ腫移植後リンパ増殖異常等の感染の証明			
医療技術名	セカンドオピニオン	取扱患者数	66人
当該医療技術の概要 前立腺がん等の組織学的検査のセカンドオピニオン			
医療技術名	顔面神経麻痺形成手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 顔面神経麻痺に対するネットワーク型神経移植			
医療技術名	遊離皮弁術、自家遊離組織移植術	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 顕微鏡下血管吻合を用いた組織移植術			
医療技術名	切断四肢再接着術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 切断肢に対する形成術			
医療技術名	裂手手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 裂手に対する形成手術			
医療技術名	顔面多発骨折観血的手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 顔面多発骨折に対する観血的整復固定術			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	上顎骨形成術、下顎骨形成術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 上顎骨又は、下顎骨の骨切りによる形成術			
医療技術名	遠位血行再建術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 膝下以下の虚血肢に対するバイパス手術			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	36人	・膿疱性乾癬	7人
・多発性硬化症	61人	・広範脊柱管狭窄症	1人
・重症筋無力症	66人	・原発性胆汁性肝硬変	54人
・全身性エリテマトーデス	103人	・重症急性膵炎	6人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	22人
・再生不良性貧血	20人	・混合性結合組織病	21人
・サルコイドーシス	26人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	14人	・特発性間質性肺炎	1人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	118人	・網膜色素変性症	15人
・特発性血小板減少性紫斑病	44人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	29人	・肺動脈性肺高血圧症	1人
・潰瘍性大腸炎	56人	・神経線維腫症	13人
・大動脈炎症候群	20人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	6人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	13人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3人
・脊髄小脳変性症	27人	・ライソゾーム病	3人
・クローン病	31人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	5人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	17人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	143人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	1人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	19人
・後縦靭帯骨化症	24人	・肥大型心筋症	3人
・ハンチントン病	4人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	23人	・ミトコンドリア病	2人
・ウェゲナー肉芽腫症	10人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	20人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	3人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	24人	・黄色靭帯骨化症	2人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	71人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
糖尿病におけるHDL代謝—HDL受容体SR-BI/CLA-1の役割と治療戦略—	村尾 孝児	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科	800,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金
難治性血管炎に関する調査研究	土橋 浩章	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科学	1,050,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金
肺癌細胞の転移浸潤能におけるサイトケラチン8分子の機能解析	石井 知也	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科	1,900,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金
超音波を用いた脂肪組織への介入によるメタボリックシンドロームの治療に関する研究	大森 浩二	循環器・腎臓・脳卒中内科学	700,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金
抗酸化ストレス及びアポトーシス抑制効果を有する希少糖を用いた新規腹膜透析液の開発	清元 秀泰	循環器・腎臓・脳卒中内科	900,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金
転移性肝癌におけるマイクロRNAを標的分子とした治療法開発のための基礎的研究	正木 勉	消化器・神経内科学	2,400,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金
ダブルノックアウトマウスを利用したアトピー性皮膚炎モデルマウスの作製	米田 耕造	皮膚科	3,000,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金
オリゴデンドロサイトのDNA損傷に対する脆弱性—ADとの関連について—	中村 祐	精神神経医学	1,100,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金
糖鎖関連分子を標的にした生活習慣病予防マーカーの開発	中村 祐	精神神経医学	100,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金
軽度認知障害の睡眠構造とアルツハイマー病移行との関連について	新野 秀人	精神神経医学	100,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金
アカシジアの病態解明に関する「覚醒時」ミオクローヌスの電気生理学的研究	新野 秀人	精神神経医学	100,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金
小児等の特殊患者に対する医薬品の適正使用に関する研究	伊藤 進	小児科学	13,000,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金
近赤外線時間分解分光法による新生児期の貧血と多血症における脳内酸素化に関する研究	磯部 健一	小児科学	700,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金
知覚認知課題を用いた乳幼児検査プログラムの開発	大久保 賢介	小児科学	600,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金
早産児、病的新生児における自発運動と視覚認知機能との関連性についての研究	大久保 賢介	小児科学	700,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金

1 研究費補助等の実績

膵がん切除例に対する補助療法の向上を目指した多施設共同研究	鈴木 康之	消化器外科学	500,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金
bFGF徐放粒子肺動脈内投与により細血管と肺胞上皮を再生させる肺気腫の治療の研究	横見瀬 裕保	呼吸器・乳腺内 分泌外科学	2,600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
肺区域切除時の肺血流ナビゲーションシステムの開発	三崎 伯幸	呼吸器・乳腺内 分泌外科学	2,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
生体内完全吸収型人工気管に関する実験的研究	張 性沫	呼吸器・乳腺内 分泌外科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
薬剤耐性腫瘍に対する標的分子抑制ベクターによる抗腫瘍剤増感療法	劉 大革	呼吸器・乳腺内 分泌外科学	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
肺癌の宿主と腫瘍における癌関連バイオマーカーの包括的解析	中島成泰	呼吸器・乳腺内 分泌外科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
自家骨髄由来幹細胞とbFGF徐放ゼラチンビーズによる肺気腫の新しい治療の研究	垂水 晋太郎	呼吸器・乳腺内 分泌外科	900,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ティッシュエンジニアリングチャンバーを用いた血管柄付き皮弁作製の実験的研究	田中 嘉雄	形成外科学	700,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
AV shunt LOOPにおける乱流と血栓形成に関する実験的研究	木暮 鉄邦	形成外科・美容 外科	600,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
脂肪幹細胞を用いた血管付人口脂肪弁の開発	浜本 有祐	形成外科・美容 外科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ウロプラキンⅢ-delta4を分子マーカーとした間質性膀胱炎の新規診断法の開発	寛 善行	泌尿器科学	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
早期前立腺がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療法の確立に関する研究	寛 善行	泌尿器科学	600,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金
高悪性度筋層非浸潤癌に対する経尿道的膀胱腫瘍切除後の治療方針の確立に関する研	寛 善行	泌尿器科学	250,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金
泌尿生殖器癌に対する抗TRAIL受容体抗体併用抗癌化学療法の開発:動物モデル展開	呉 秀賢	泌尿器科学	800,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
悪性脳腫瘍に対する薬剤耐性遺伝子を用いた遺伝子・タンパク治療の研究	田宮 隆	脳神経外科学	4,300,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

分子イメージングPET核種を用いた頭部外傷における脳虚血の検出	河井 信行	脳神経外科学	1,000,000	(補)委	文部科学省科学研究費補助金
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	白神 史雄	眼科学	3,000,000	(補)委	厚生労働科学研究費補助金
血管新生黄斑症に対するペプチドワクチン療法	白神 史雄	眼科学	3,300,000	(補)委	厚生労働科学研究費補助金
未熟児網膜症の新規手術法開発後の治療プロトコルの標準化	白神 史雄	眼科学	1,500,000	(補)委	厚生労働科学研究費補助金
アンジオテンシン変換酵素阻害薬は正常眼圧緑内障患者を救えるか	廣岡 一行	眼科	800,000	(補)委	文部科学省科学研究費補助金
メニエール病発症におけるβアドレナリン受容体の役割に関する研究	森 望	耳鼻咽喉科学	1,200,000	(補)委	文部科学省科学研究費補助金
希少糖の制癌作用を用いた新たな治療法の開発	星川 広史	耳鼻咽喉科学	1,000,000	(補)委	文部科学省科学研究費補助金
内リンパ嚢上皮におけるイオン輸送制御	宮下 武憲	耳鼻咽喉科学	2,137,326	(補)委	文部科学省科学研究費補助金
PET分子イメージングによる脳腫瘍の不均一性評価の研究	西山 佳宏	放射線医学	1,500,000	(補)委	文部科学省科学研究費補助金
肺癌における低酸素細胞陽性描画を目的としたPET分子イメージング研究	山本 由佳	放射線科	1,500,000	(補)委	文部科学省科学研究費補助金
F-18 FLT PETを用いた消化器癌の分子イメージングの研究	亀山 麗子	放射線科	1,000,000	(補)委	文部科学省科学研究費補助金
生理食塩水による磁気共鳴差分血管撮影法の開発	中野 覚	放射線部	950,000	(補)委	文部科学省科学研究費補助金
経時的脳内酸化ストレス評価に基づく重症脳障害患者の酸化治療の有効性に関する研究	黒田 泰弘	救急災害医学	700,000	(補)委	文部科学省科学研究費補助金
バーチャルリアリティによる内視鏡支援下口腔外科手術手技訓練システムの開発	松井 義郎	歯科口腔外科学	500,000	(補)委	文部科学省科学研究費補助金
CD34陽性細胞を用いる骨再生促進法に対するG-CSFの併用効果	松井 義郎	歯科口腔外科学	100,000	(補)委	文部科学省科学研究費補助金

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

歯エナメル質による放射線被曝線量評価:in vivo ESRを用いた補正法の検討	岩崎 昭憲	歯・顎・口腔外科	2,400,000	(補)委	文部科学省科学研究費補助金
超音波血流ドプラ信号の相互相関解析によるメタボリックシンドロームの心血管機能評価	千田 彰一	総合診療部	600,000	(補)委	文部科学省科学研究費補助金
医療連携モデルを基盤とした総合診療系医と領域別専門医の必要数算定法と専門医制	千田 彰一	総合診療部	600,000	(補)委	厚生労働科学研究費補助金
胃瘻からの半固形化栄養材注入法の機序と臨床的意義の検討	合田 文則	総合診療部	2,500,000	(補)委	文部科学省科学研究費補助金
新しい心臓年齢の提唱と脳心腎連関をふまえた総合的高血圧性臓器障害予防に関する研究	舩形 尚	総合診療部	600,000	(補)委	文部科学省科学研究費補助金
希少糖の経口摂取による侵襲抑制効果の検討	浅賀健彦	集中治療部	500,000	(補)委	文部科学省科学研究費補助金
材料/細胞組織界面特性に着目した医用材料の新規評価方法の開発に関する研究	横井 英人	医療情報部	1,000,000	(補)委	厚生労働科学研究費補助金
医療機器の不具合用語の標準化及びコード化に関する研究	横井 英人	医療情報部	4,110,000	(補)委	厚生労働科学研究費補助金
複数回治療に対応した次世代がん放射線治療計画支援システムの開発	上村 幸司	医療情報部	800,000	(補)委	文部科学省科学研究費補助金
低酸素性虚血性脳症の水素投与と酸素調節での活性酸素減少を目的とした治療戦略の確立	日下 隆	総合周産期母子医療センター	900,000	(補)委	文部科学省科学研究費補助金
生体腎移植における片腎機能と移植腎長期生着に及ぼすRA阻害薬の効果	祖父江 理	血液浄化療法室	900,000	(補)委	文部科学省科学研究費補助金
慢性腎臓病進行の機序	西山 成	薬理学	500,000	(補)委	文部科学省科学研究費補助金
ミネラルコルチコイド受容体を介した腎障害メカニズムの解明と新しい治療戦略	西山 成	薬理学	700,000	(補)委	文部科学省科学研究費補助金
	受入額計		83,097,326		合計58件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名 発表年月	題名	発表者氏名	所属部門
Mol Cell Biochem. 平成23年6月	Expression of CD38 with intracellular enzymatic activity: a possible explanation for the insulin release induced by intracellular cADPR.	Ohta Y.	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科
Transplant Proc. 平成22年9月	Micafungin does not influence the concentration of tacrolimus in patients after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	Fukuoka N.	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科
Support Care Cancer. 平成22年10月	Medical cost analysis for antifungal prophylaxis in neutropenic patients with hematological malignancies: a systematic simulation analysis.	Imataki O.	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科
Clinical Rheumatology 平成23年5月	Improvement of irregularity of brain vessel walls in systemic lupus erythematosus by tacrolimus.	H. Kizu	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科
日本脊椎関節炎学会誌 平成22年9月	乾癬性関節炎における抗TNF療法の検討	土橋浩章	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科
腎とフリーラジカル 平成22年6月	腎不全合併末梢循環不全におけるLDLアポBの有効性と白血球NAD(P)H oxidaseの関与	原 大雅	循環器・腎臓・脳卒中内科
Hepatol Res 平成22年8月	Clinical characteristics of patients with autoimmune hepatitis seropositive for anticentromere antibody.	Himoto T	消化器・神経内科
日本消化器内視鏡学会雑誌 平成23年1月	ESD法を利用した局注・切開・焼灼術で止血し得た多発Dieulafoy潰瘍が疑われた1症例	森 宏仁	消化器・神経内科
胆と膵 平成22年8月	原発性硬化性胆管炎に対する内視鏡治療と長期予後	鎌田英紀	消化器・神経内科
J Neurol 平成22年8月	The close relationship between life-threatening breathing disorders and urine storage dysfunction in multiple system atrophy.	Deguchi K	消化器・神経内科

雑誌名 発表年月	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Oncol 平成22年10月	The use of protein array to identify targetable receptor tyrosine kinases for treatment of human colon cancer.	Morishita A	消化器・神経内科
日本門脈圧亢進症学会雑誌 平成22年12月	抗セントロメア抗体陽性原発性胆汁性肝硬変患者における門脈域の組織学的検討	樋本尚志	消化器・神経内科
Exp Ther Med 平成23年3月	Use of protein array technology to investigate receptor tyrosine kinases activated in hepatocellular carcinoma.	Liu S	消化器・神経内科
消化器と免疫 平成23年3月	自己免疫現象を伴うC型慢性肝炎における血清B lymphocyte activating factor (BAFF) 値測定の意義について	樋本尚志	消化器・神経内科
THE JOURNAL OF BIOLOGICAL CHEMISTRY 2010年5月	Activation of Vascular Endothelial Growth Factor Receptor 2 in a Cellular Model of Loricrin Keratoderma	Kozo Yoneda	皮膚科
Pediatr Nephrol. 平成22年6月	Two families with compound heterozygosity for adenine phosphoribosyltransferase deficiency.	Iwaki T	小児科学
Pediatrics International 平成23年2月	Book Review Guide to Paediatric Drug Development and Clinical Research. Edited by K Rose and JN van den Anker, Karger, Tokyo, 2010	Susumu Itoh	小児科学
日本小児臨床薬理学会雑誌 平成23年3月	早期新生児におけるアミカシン投与時の血清シスタチンC測定有用性の検討	河田興	小児科学
日本小児臨床薬理学会雑誌 平成23年3月	小児薬物療法根拠収集事業におけるアシクロビル適応拡大にむけた報告書作成について	大久保賢介	小児科学
Pediatr Int 平成23年3月	Management of phototherapy for neonatal hyperbilirubinemia: Is a new radiometer applicable for all wavelengths and light source types?	T. Kuboi et al	小児科

雑誌名 発表年月	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Gynecol Obstet 平成22年6月	Four-dimensional sonographic assessment of fetal movement late in the first trimester.	T. Hata	周産期学婦人科学
J Obstet Gynecol Res 平成22年6月	Four-dimensional volume-rendered imaging of the fetal ventricular outflow tracts and great arteries using inversion mode for detection of congenital heart disease.	T. Hata	周産期学婦人科学
Ultrasound Med Biol 平成22年11月	Four-dimensional sonographic volume Measurement of the fetal stomach.	T. Hata	周産期学婦人科学
Anticancer Res 平成23年2月	Expression of the vascular endothelial growth factor (VEGF) gene in epithelial ovarian cancer: an approach to anti-VEGF therapy.	T. Hata	周産期学婦人科学
European Journal of Cardio-thoracic Surgery 平成22年8月	Surgical ventricular restoration combined with mitral valve procedure for endstage ischemic cardiomyopathy.	堀井 泰浩	心臓血管外科
Transplantation 2011 27:91(10):1082-9.	Hepatic preconditioning using lipopolysaccharide: association with specific negative regulators of the Toll-like receptor 4 signaling pathway	T. Sano	消化器外科
J Hepatobiliary Pancreat Sci 2011 Epub ahead of print	Persisting ratio of total amylase output in drain fluid can predict postoperative clinical pancreatic fistula.	K. Okano	消化器外科
World Journal of Gastroenterology 2011 Jan 14;17(2):231-5.	Role of 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography with dual time point evaluation in the diagnosis of small pancreatic cancer	K. Okano	消化器外科
HPB 2011 12(8):538-45	Protective effect of lipopolysaccharide preconditioning in hepatic ischaemia reperfusion injury	T. Sano	消化器外科
Ann Surg Oncol 2011 Dec;17(12):3386-93	Jun Activation Domain Binding Protein 1 is Overexpressed from the Very Early Stages of Hepatocarcinogenesis.	S. Yachida	消化器外科

雑誌名 発表年月	題名	発表者氏名	所属部門
Hepatology 2010 Sep-Oct;57(102-103):1309-13.	Slow Parenchymal Flattening Technique for Distal Pancreatectomy Using an Endopath Stapler: A Simple and Safe Technical Management	K. Okano	消化器外科
Nature. 2010 Oct 28;467(7319):1114-7.	Distant metastasis occurs late during the genetic evolution of pancreatic cancer.	S. Yachida	消化器外科
Nature. 2010 Oct 28;467(7319):1109-13.	The patterns and dynamics of genomic instability in metastatic pancreatic cancer.	S. Yachida	消化器外科
Jpn J Clin Oncol 平成23年3月	Postoperative lymphocyte percentage influences the long-term disease-free survival following a resection for colorectal carcinoma	Y. Nishizawa	消化器外科
J Surg Oncol 平成22年12月	Preliminary experience with bladder preservation for lower rectal cancers involving the lower urinary tract	Y. Nishizawa	消化器外科
Cancer Sci 平成22年4月	CD133 expression in rectal cancer after preoperative chemoradiotherapy	Y. Nishizawa	消化器外科
Ann Thorac Cardiovasc Surg. 平成22年6月	Progressive growth of primary synovial sarcoma of the lung.	Nakano J	呼吸器・乳腺内分泌外科
Int J Oncol. 平成22年9月	Intratumoral Wnt1 expression affects survivin gene expression in non-small cell lung cancer.	Nariyasu N	呼吸器・乳腺内分泌外科
J Thorac Cardiovasc Surg. 平成22年10月	New clinically applicable method for visualizing adjacent lung segments using an infrared thoracoscopy system.	Misaki N	呼吸器・乳腺内分泌外科
Interact Cardiovasc Thorac Surg. 平成22年10月	Intrapericardial approach via median sternotomy for hilar non-small cell lung cancer invading the main pulmonary artery.	Igai H	呼吸器・乳腺内分泌外科

雑誌名 発表年月	題名	発表者氏名	所属部門
Ann Thorac Surg. 平成22年12月	A new application for the heart positioner in operations for mediastinal tumors.	Matsuura N	呼吸器・乳腺内 分泌外科
Anticancer Res. 平成23年2月	The role of MAPK pathway in bone and soft tissue tumors.	Sasaki K	整形外科
JOSKAS 平成23年3月	膝蓋骨非置換で行ったMIS-TKAの術後PF関節適合性に関する検討	千頭憲一郎	整形外科
JOSKAS 平成23年3月	対側のHTOと比較したUKAの術後成績と満足度	真柴賛	整形外科
日本手外科学会雑誌 平成23年2月	上腕骨外上顆炎に対する伸筋膜切開術の術後成績不良因子の検討	中村修	整形外科
日本手外科学会雑誌 平成23年1月	手根管症候群における各種検査値とQuick DASHスコアの関係	加地良雄	整形外科
日本手外科学会雑誌 平成22年12月	高齢者の肘部管症候群の検討	今泉泰彦	整形外科
日本人工関節学会誌 平成22年12月	Pinnacle Cupの使用経験	堀江亮佑	整形外科
日本人工関節学会誌 平成22年12月	10度以上の屈曲拘縮膝に対するUKAの短期成績	西村英樹	整形外科
日本肘関節学会雑誌 平成22年12月	肘部管症候群における各種検査値とQuickDASHスコアの関係	加地良雄	整形外科

雑誌名 発表年月	題名	発表者氏名	所属部門
Jpn J Clin Oncol 平成 22年10月	Pathological findings at radical prostatectomy in Japanese prospective active surveillance cohort	M. Sugimoto	泌尿器・副 腎・腎移植外 科
泌尿器外科 平成22年4月	特集 前立腺癌PSAスクリーニングとactive surveillance 前立腺癌に対するactive surveillance-pros.	杉元 幹史	泌尿器・副 腎・腎移植外 科
前立腺癌診療 平成22年4月	待機療法とPSA監視療法の違いについて教え てください	寛 善行	泌尿器・副 腎・腎移植外 科
前立腺癌診療 平成22年4月	PSA監視療法患者の精神的、身体的QOLの変化 について教えてください。また、手術、小線 源療法、放射線外照射と比較してどうでしょ うか？	杉元 幹史	泌尿器・副 腎・腎移植外 科
脳神経外科 (No Shinkei Geka) 平成22年9月	重症頭部外傷における脳内microdialysisの応用 (総説)	河井信行	脳神経外科
脳神経外科 (No Shinkei Geka) 平成22年11月	非腫瘍性脳病変におけるメチオニンPET	河井信行	脳神経外科
日本血管内治療学会誌 平成22年11月	冠動脈ステントを用いた脳動脈瘤塞栓術	川西正彦	脳神経外科
脳卒中の外科 平成22年11月	大型血栓化動脈瘤に対する血管内手術	新堂 敦	脳神経外科
J Neurooncol 平成22年9月	Correlation of L-methyl-11C-methionine (MET) uptake with L-type amino acid transporter 1 in human gliomas.	大久保修一	脳神経外科
Ann Nucl Med 平成22年9月	Use of PET in the diagnosis of primary CNS lymphoma in patients with atypical MR findings.	河井信行	脳神経外科

雑誌名 発表年月	題名	発表者氏名	所属部門
J Neurooncol 平成22年11月	Prognostic value of pretreatment 18F-FDG PET in patients with primary central nervous system lymphoma: SUV-based assessment.	河井信行	脳神経外科
J Neurotrauma 平成22年11月	Focal neuronal damage in patients with neuropsychological impairment after diffuse traumatic brain injury: evaluation using (11)C-flumazenil positron emission tomography with statistical image analysis.	河井信行	脳神経外科
Eur J Nucl Med Mol Imaging 平成23年3月	Correlation of biological aggressiveness assessed by (11)C-methionine PET and hypoxic burden assessed by (18)F-fluoromisonidazole PET in newly diagnosed glioblastoma.	河井信行	脳神経外科
脳循環代謝 平成23年2月	びまん性脳外傷後高次脳機能障害患者における局所性脳神経細胞障害：統計学的画像解析法を用いた11-C-flumazenil PETによる検討	河井信行	脳神経外科
神経外傷 平成22年12月	頭部外傷後高次脳機能障害評価のための11C-フルマゼニルによる中枢性ベンゾジアゼピン受容体測定	河井信行	脳神経外科
Acta Ophthalmologica 平成22年5月	EXTEND-I: safety and efficacy of ranibizumab in Japanese patients with subfoveal choroidal neovascularisation secondary to age-related macular degeneration.	F. Shiraga	眼科
Jpn J Ophthalmol 平成22年5月	Vascular endothelial growth factor concentrations in aqueous humor before and after subconjunctival injection of bevacizumab for neovascular glaucoma.	T. Baba	眼科
J Glaucoma 平成23年1月	Comparison of ICare Rebound Tonometer with Noncontact Tonometer in Healthy Children.	M. Kageyama	眼科
Invest Ophthalmol Vis Sci 平成22年7月	Neuroprotection Against Retinal Ischemia-Reperfusion Injury by Blocking the Angiotensin II Type 1 Receptor.	K. Fukuda	眼科
Arch Ophthalmol 平成23年1月	Reduction in dose of intravitreal bevacizumab before vitrectomy for proliferative diabetic retinopathy.	F. Shiraga	眼科

雑誌名 発表年月	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Ophthalmol 平成22年11月	Multicenter Survey with a Systematic Overview of Acute-Onset Endophthalmitis after Transconjunctival Microincision Vitrectomy Surgery.	F. Shiraga	眼科
Neuroscience Letters 平成23年1月	Anti-oxidative effects of D-allose, a rare sugar, on ischemia-reperfusion damage following focal cerebral ischemia in rat.	F. Shiraga	眼科
臨床眼科 平成22年6月	網膜静脈分枝閉塞症に伴う黄斑浮腫に対するベバシズマブ硝子体内注入の中期成績	福田恒輝	眼科
あたらしい眼科 平成22年11月	健常人におけるGoldmann視野計と自動視野計Octopus900の比較検討	馬場哲也	眼科
Retina 平成23年2月	Retinal Therapy with Microsecond Exposures using a Continuous Line Scanning Laser.	H. Nomoto	眼科
Connect Tissue Res 平成23年2月	Distribution of α (IV) Collagen Chains in the Ocular Anterior Segments of Adult Mice.	H. Nomoto	眼科
Invest Ophthalmol Vis Sci 平成23年3月	Non-damaging Retinal Phototherapy: Dynamic Range of Heat Shock Protein Expression.	H. Nomoto	眼科
眼科手術 平成22年10月	網膜剥離に対する硝子体手術後の網膜ずれ	白神千恵子	眼科
眼科手術 平成22年4月	緑内障手術-術後早期の管理方法	馬場哲也	眼科
あたらしい眼科 平成22年10月	夜間眼圧上昇眼に対する緑内障点眼薬の効果.	馬場哲也	眼科

雑誌名 発表年月	題名	発表者氏名	所属部門
あたらしい眼科 平成23年1月	抗VEGF薬併用による血管新生緑内障治療の変化	馬場哲也	眼科
Acta Ophthalmologica 平成23年3月	Long-term efficacy and safety of ranibizumab administered pro re nata in Japanese patients with neovascular age-related macular degeneration in the EXTEND-I study	白神史雄	眼科
Jpn J Ophthalmol 平成23年3月	D-allose as Ischemic Retina Injury Inhibitor During Rabbit Vitrectomy.	広岡一行	眼科
The Journal of Histochemistry & Cytochemistry 平成22年8月	The detailed localization pattern of Na ⁺ /K ⁺ /2Cl ⁻ cotransporter type 2 and its related ion transport system in the rat endolymphatic sac	K. Akiyama	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
Annals of Otolaryngology, Rhinology & Laryngology 平成22年8月	In vitro and in vivo effects of D-allose: Up-regulation of thioredoxin-interacting protein in head and neck cancer cells	H. Hoshikawa	耳鼻咽喉科学
Molecular Imaging and Biology 平成23年2月	Comparison of FLT-PET and FDG-PET for visualization of head and neck squamous cell cancers	H. Hoshikawa	耳鼻咽喉科学
Jpn J Radiol 平成22年7月	Clinical value of 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography in patients with connective tissue disease	Y. Nishiyama	放射線科
J Thorac Imaging 平成22年7月	A Case of Pulmonary Sclerosing Hemangioma Surrounded by Giant Cystic Change on High-resolution Computed Tomography.	M. Murota	放射線科
Acta Med Okayama 平成23年2月	CT assessment of subtypes of pulmonary emphysema in females.	T. Togami	放射線科
Journal of bioscience and bioengineering 平成22年6月	Atrial natriuretic peptide enhances recovery from ischemia/reperfusion-induced renal injury in rats	Chujo K	麻酔・ペインクリニック科

雑誌名 発表年月	題名	発表者氏名	所属部門
平成22年9月	Medical cost analysis for antifungal prophylaxis in neutropenic patients with hematological malignancies: a systematic simulation analysis.	Y. Kubota	輸血部
平成22年12月	The immature platelet fraction is a useful marker for predicting the timing of platelet recovery in patients with cancer after chemotherapy and hematopoietic stem cell transplantation.	Y. Kubota	輸血部
平成22年6月	patients with chronic liver disease: a convenient marker for evaluating cirrhotic change.	Y. Kubota	輸血部
Cytopathology 平成22年10月	Value of computer-assisted quantitative nuclear morphometry for differentiation of reactive renal tubular cells from low-grade urothelial carcinoma.	Ohsaki H	病理部
Lung Canter 平成22年10月	The clinical significance of the tumor cell D2-40 immunoreactivity in non-small cell lung canter.	Kadota K	病理部
Cytopathology 平成22年10月	Can cytological features differentiate reactive renal tubular cells from low-grade urothelial carcinoma cells?	Ohsaki H	病理部
Int J Oncol 平成23年2月	Combined therapy with a thymidylate synthase-inhibiting vector and S-1 has effective antitumor activity against 5-FU-resistant tumors.	Kadota K	病理部
日本臨床救急医学会雑誌 2010:13:361-8 平成22年6月	脳卒中救急診療の地域連携を目指したISLS/PSLS同時開催の試み	中村丈洋	救命救急センター
日本臨床救急医学会雑誌 2010:13:505-511 平成22年8月	脳卒中病院前救護 (PSLS: prehospital stroke life support) コースの消防学校専科教育救急科への導入と検討	中村丈洋	救命救急センター
TDM研究 2010:27:1:33-38 平成22年3月	脳低温療法時におけるミダゾラムの適正投与に向けて	下岡幸恵	救命救急センター

雑誌名 発表年月	題名	発表者氏名	所属部門
地域救急災害医療研究 2010:9:1-4 平成22年6月	地域歯科クリニックのスタッフを対象にした基礎蘇生研修開催報告：香川県でのDCLS-miniコース開催の試み	中村丈洋	救命救急センター
地域救急災害医療研究 2010:9:15-21 平成22年6月	学会地方会併設にてハンズオンとして開催した神経蘇生研修：第26回日本救急医学会中国四国地方会での開催報告	乙宗佳奈子	救命救急センター
Clin Exp Hypertens. 平成23年3月	Association between Echocardiographic Parameters and Brain Natriuretic Peptide Levels in Treated Hypertensive Patients.	H. Masugata	総合診療部
Tohoku J Exp Med. 平成23年2月	Association between Bone Mineral Density and Arterial Stiffness in Hypertensive Patients.	H. Masugata	総合診療部
J Int Med Res. 平成23年1月	Aortic root dilatation as a marker of subclinical left ventricular diastolic dysfunction in patients with cardiovascular risk factors.	H. Masugata	総合診療部
Tohoku J Exp Med. 平成22年10月	Age-related Decrease in Inferior Vena Cava Diameter Measured with Echocardiography	H. Masugata	総合診療部
Clin Exp Hypertens. 平成22年10月	Differences between Hypertensive and Atherosclerotic Lesions in Retinal Arteries Assessed by Scheie's Classification in Hypertensive Patients following Stroke.	H. Masugata	総合診療部
Tohoku J Exp Med. 平成22年9月	Cardio-Ankle Vascular Index for Evaluating Immunosuppressive Therapy in a Patient with Aortitis Syndrome	H. Masugata	総合診療部
Experimental and therapeutic medicine 平成22年8月	Insulin resistance derived from zinc deficiency in non-diabetic patients with chronic hepatitis C	T. Himoto	総合診療部
Experimental and Therapeutic Medicine 平成22年6月	Relationship between the production of autoantibodies to oxidized low-density lipoprotein and hepatic steatosis in patients with chronic hepatitis C.	T. Himoto	総合診療部

雑誌名 発表年月	題名	発表者氏名	所属部門
Tohoku J Exp Med. 平成22年6月	Aortic annular velocity assessed by tissue Doppler echocardiography as a potential parameter of arterial stiffness	H. Masugata	総合診療部
Expert Rev Cardiovasc Ther. 平成22年6月	Clinical significance of central blood pressure measurement in antihypertensive treatment.	H. Masugata	総合診療部
Horm Metab Res H22年4月	Hyperglycemia suppresses ABCA1 expression in vascular smooth muscle cells.	Murao K	先端医療・臨床検査医学
Endocrine 平成22年4月	Idiopathic unilateral adrenal hemorrhage in an elderly patient.	Imachi H	先端医療・臨床検査医学
J Cell Mol Med 平成22年5月	Exendin-4 regulates pancreatic ABCA1 transcription via CaMKK/CaMKIV pathway.	Murao K	先端医療・臨床検査医学
J Cell Mol Med 平成22年6月	Prolactin regulatory element-binding protein involved in cAMP-mediated suppression of adiponectin gene.	Murao K	先端医療・臨床検査医学
Breast Cancer Res Treat 平成22年7月	Menin, a product of the MEN1 gene, binds to estrogen receptor to enhance its activity in breast cancer cells: possibility of a novel predictive factor for tamoxifen resistance.	Imachi H	先端医療・臨床検査医学
Clin Endocrinol (Oxf) 平成22年7月	Successful therapy of Cushing's disease caused by an extrapituitary parasellar adenoma.	Murao K	先端医療・臨床検査医学
Horm Metab Res 平成22年7月	Suppression of prolactin expression by cabergoline requires prolactin regulatory element-binding protein (PREB) in GH3 cells.	Murao K	先端医療・臨床検査医学
Am J Med Sci 平成22年8月	Positron emission tomography with 18F-fluorodeoxyglucose is a useful tool for the diagnosis of pheochromocytomas without distant metastasis, where malignancy is suspected on the basis of histopathologic analysis.	Imachi H	先端医療・臨床検査医学

雑誌名 発表年月	題名	発表者氏名	所属部門
Endocrine 平成22年8月	The transcription factor prolactin regulatory element-binding protein mediates prolactin transcription induced by thyrotropin-releasing hormone in GH3 cells.	Murao K	先端医療・臨床検査医学
Atherosclerosis 平成22年10月	Transcriptional factor prolactin regulatory element-binding protein-mediated gene transcription of ABCA1 via 3',5'-cyclic adenosine-5'-monophosphate.	Murao K	先端医療・臨床検査医学
Am J Med Sci 平成22年10月	Misdiagnosis of two cases of primary aldosteronism owing to failure of computed tomography to detect adrenal microadenoma	Murao K	先端医療・臨床検査医学
Metabolism 平成23年1月	Calcium/calmodulin-dependent protein kinase IV involvement in the pathophysiology of glucotoxicity in rat pancreatic β -cells.	Murao K	先端医療・臨床検査医学

13ページ
計4件
合計124件

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病 院 長 千 田 彰 一		
管理担当者氏名	総務課長	林 勝幸	患者サービス課長 鬼村 博幸
	薬剤部長	芳地 一	放射線部長 西山 佳宏

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医学部患者サービス課 薬剤部 放射線部 検査部 病理部 医療情報部	診療録及び診療諸記録を電子媒体にて保存管理している。紙媒体のものについては、外来・入院別に1患者1ファイル方式とし、エックス線写真は1患者1ファイル方式で共に永久保存を原則として、コンピューターによる集中管理を行っている
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	医学部総務課	
	高度の医療の提供の実績	医学部患者サービス課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学部総務課	
	高度の医療の研修の実績	医学部患者サービス課	
	閲覧実績	医学部患者サービス課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医学部患者サービス課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医学部患者サービス課及び薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の第一項各号及び第九の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医学部患者サービス課 医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医学部患者サービス課 地域連携室 医療安全管理部	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医療安全管理部 薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全管理部 ME機器管理センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部 ME機器管理センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部 ME機器管理センター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部 ME機器管理センター		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	医学部事務部長 日出 充一
閲覧担当者氏名	患者サービス課長 鬼村 博幸
閲覧の求めに応じる場所	管理棟 1 階情報公開室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	73.7 %	算定期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	8,654 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	6,410 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	714 人	
	D: 初診の患者の数	15,012 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容：別紙①のとおり	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 1 回
・ 活動の主な内容： (1) 安全管理のための指針の整備及び情報収集に関する事。事。 (2) 安全管理のための医療事故等の院内報告制度の整備に関する事。事。 (3) 安全管理に関する教育及び研修に関する事。事。 (4) 医療事故の防止及び対策に関する事。事。 (5) 安全対策マニュアルの実施状況の検証に関する事。事。 (6) 医療事故発生時の対応方法の整備(事故調査を含む。)に関する事。事。 (7) 医事問題に係る対策に関する事。事。 (8) 分析されたインシデントレポートの情報を、速やかに職員に周知及び実行させる事。事。 (9) その他医療事故を含む安全管理に関する事。事。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 0 回
・ 研修の主な内容：別紙②のとおり	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○提出されたインシデントのレポートを週に一回審議し、対応策を検討する。内容によってはGRMが現場に出向き、対応指導を行う。 ○安全管理室員会議においてインシデントの集計、分析、再発防止策を検討し安全管理委員会に報告する。 ○リスクマネージャ会議において安全管理委員会及び安全管理室が講じた対策等の情報を各現場に浸透させる。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員： 専任 (1) 名 兼任 (1 9) 名 ・ 活動の主な内容： 病院長の下に組織横断的に院内の安全管理を担い、医療安全管理委員会において審議する事項 (上記②) に関して、調査、資料作成等を行うとともに、審議結果等に基づく安全管理を実施する。また、医療安全管理委員会に対して安全管理に関する提言を行う。	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容：別紙③のとおり	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 1 回
・ 活動の主な内容： (1) 院内感染の調査、予防及び防止に関する事。事。 (2) 感染予防の実施、監視及び指導に関する事。事。 (3) 感染症発生時の措置に関する事。事。 (4) 院内職員の教育及び啓蒙に関する事。事。 (5) 消毒剤の使用に関する事。事。 (6) HIV感染及びAIDSに係る職員の教育・啓蒙に関する事。事。 (7) HIV・AIDS診療に従事する人材の育成に関する事。事。 (8) HIV・AIDS診療に係る県内各拠点病院との連携の実施に関する事。事。 (9) その他感染予防に関する事。事。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： ・ 感染防止の技術 ・ 病院感染対策について ・ 感染対策のスタンダードプリコーション、感染経路別予防策	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 毎月のレポートは感染対策室員会議で検討し、検討結果を感染制御委員会に報告、必要に応じて対応を協議している。レポートの結果を職員にフィードバックしている。 感染症発生報告の内容によってICNが現場へ出向き対応、指導を行う。必要に応じてICTが招集され対策を検討、ICN、ICD、ICTが協力して対応にあたる。適宜、病院長、感染制御委員会、各関係会議等へ報告を行う。	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 18 回
・ 研修の主な内容： 医薬品の安全使用を目的とし、各病棟職員または病院職員全体を対象とした研修を行っている。	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： 1) 医薬品の採用と購入 2) 医薬品の管理 3) 投薬指示と調剤 4) 患者に対する服薬指導 5) 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱い(収集・提供) 6) 他施設との連携の各業務について適正に実施している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) 薬剤部ニュース(月1回)を全診療科に配布している。 2) 急を要する連絡は文書と院内Webで通知している。 3) 薬事委員会で院内採用薬の見直しを行っている。 4) 院内での副作用発生事例については情報を収集し、厚生労働省および当該医薬品メーカーへ報告を行っている。 5) 医薬品安全管理委員会(薬事委員会)を設置、年4回開催している。	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年60回
<p>・ 研修の主な内容： 業者の協力を得て、新しい医療機器の使用が予定される部署、職員等を対象に研修を実施している。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 機種別に保守点検の周期を設け、定期的に点検を実施し、記録を保存している。業務委託による保守点検においては実施状況等の記録を保存し、管理状況を把握している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ニュース「ME機器管理センターからのお知らせ」を説明のうえ、各病棟、部署に配布している。必要に応じてリスクマネージャー会議で周知徹底を行っている。また、人工心肺装置及び補助循環装置等、対象部署が限局される事項については、その都度通知文を回覧し周知徹底している。 K-MINDにてマニュアル、添付文書、ニュース、お知らせを掲載している。</p>	

安全管理のための基本方針

本院は、患者様が安心して医療を受けられる環境を整え、各医療現場において安全確実な医療を実践・教育する。

医療事故の絶無を期して、現場における責任体制を明確にし、医療事故防止のための安全管理体制を病院全体で取り組み確立する。

1 安全管理のための委員会

安全管理及び医療事故の防止・対策について審議するため、医療安全管理委員会を置く。

2 医療安全管理部 安全管理室

医療安全管理委員会が講じた安全対策をリスクマネジャーを通じて速やかに実践徹底させると共に、医療安全管理委員会に安全対策を提言する。

3 専任リスクマネジャー

本院全体の医療事故防止及び安全管理の任に当たらせるため、医療安全管理部に専任リスクマネジャーを置く。

4 リスクマネジャー

医療安全管理委員会及び医療安全管理部が講じた安全対策等の情報を、各医療現場に浸透させるため、また、各医療現場で発生した医療事故及びインシデントの報告及び医療事故防止に関する問題点等を医療安全管理部及び医療安全管理委員会の審議に反映させるため、各科(部)等にリスクマネジャーを置く。

5 安全管理のための職員教育及び研修

医療事故防止手法などの安全管理に関する教育を行うと共に、職員研修を開催する。

6 医療事故発生時の対応

医療事故に関する情報は、速やかに、病院長及び医療安全管理部長に連絡し、報告書を提出する。医療安全管理委員会は報告書に基づいて、内容・実状を把握し、対応・改善を協議する。

7 安全対策マニュアル

病院関係職員の医療事故防止のため、「安全対策マニュアル」を作成し、周知徹底を図る。
なお、状況等により随時見直しを行うものとする。

8 医薬品安全管理責任者

本院全体の医薬品の安全使用の任に当たらせるため、薬剤部に医薬品安全管理責任者を置く。

9 医療機器安全管理責任者

本院全体の医療機器の安全使用の任に当たらせるため、ME機器管理センターに医療機器安全管理責任者を置く。

10 患者相談

患者様からの医療安全管理に関する相談に対して、誠実に対応する。

11 その他

安全管理のための方策を検討し、医療事故防止に努める。
本指針は、患者様及びその家族等から閲覧の求めがあった場合には、これに応じるものとする。

(別紙②)

平成22年度安全管理のための職員研修実施報告

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
1	4月1日	新採用研修医	48名	180分	講義「本院の患者安全管理体制について」
					講師 医療安全管理部 横見瀬部長
					講義「インシデントレポートの記載方法と事例分析」
2	4月5日	新採用看護職員	108名	60分	講義「インシデントレポートの記載方法と事例分析」
					講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
3	4月7日 4月8日	新採用看護師	108名	18時間	講義「採血、翼状針によるルート確保」「輸液ポンプ・シリンジポンプ使用方法」
					講義「基本技術演習(フィジカルアセスメント)」
					講師 看護部担当副師長、教育委員会、(株)テルモ、医療安全管理部豊嶋専任RM
4	4月20日	リスクマネジャー	10名	20分	講義「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」
					講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
5	5月12日	看護職員復帰者・中途採用者	4名	30分	講義「医療の安全に関すること」
					講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
6	5月18日	全職員	561名	60分	講義「平成21年度インシデント集計及び安全対策報告、平成21年度感染対策室活動状況報告」
	5月24,27日	ビデオ上映会	339名	60分	講師 医療安全管理部長、豊嶋専任RM、田中副師長
7	7月27日	看護部リスク委員会	22名	60分	講義「RCA分析」
					講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
8	6月1日	看護職員復帰者・中途採用者	6名	30分	講義「医療の安全に関すること」
					講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
9	6月15日	新採用医師・コメディカル	55名	40分	講義「本院の安全管理体制について」
					講師 医療安全管理部 横見瀬部長
10	6月15日	全職員	325名	60分	講義「ハイリスク薬の安全管理について -インスリン製剤の安全管理と強心薬(カテコールアミン系)の安全管理-
					講師 日本イーライリリー(株)、協和発酵キリン(株)学術担当者
11	6月15日	リスクマネジャー	1名	20分	講義「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」
					講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
12	7月15、16日	ニチイ(外注職員)	47名	30分	講義「インシデントレポート報告体制について」
					講師 豊嶋専任RM
13	7月20日	全職員	484名	60分	講義「人工呼吸器と安全管理」
					講師 フクダ電子株式会社クリティカルケア営業部 長谷川 悦郎
14	7月29日	看護職員アルバイト	2名	30分	講義「医療の安全に関すること」
					講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
15	8月2日	看護職員復帰者・中途採用者	4名	30分	講義「医療の安全に関すること」
					講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
16	9月1日	看護職員復帰者・中途採用者	3名	30分	講義「医療の安全に関すること」
					講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
17	9月7日	全職員	512名	60分	講義「平成21年度インシデント集計及び安全対策報告、平成21年度感染対策室活動状況報告」
					講師 医療安全管理部長、豊嶋専任RM、田中副師長
	9月24、28日	ビデオ上映会	496名	60分	
		CD視聴	98名		※H22.11.1現在

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容	
18	安全管理研修(講義)	9月17日	リスクマネジャー	1名	20分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
19	安全管理研修(講義)	9月21日	リスクマネジャー	60名	60分	講義 「RCA分析」 講師 医療安全管理部 横見瀬部長、豊嶋専任RM
20	安全管理研修(講義)	10月1日	看護職員復帰者・中途採用者	4名	30分	講義 「医療の安全に関すること」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
21	医療ガス安全管理研修	10月28日	全職員	487名	60分	講義 「医療ガスの取り扱い等について」
		11月2日			60分	講師 管理施設課
22	安全管理研修(講義)	11月1日	看護職員復帰者・中途採用者	4名	30分	講義 「医療の安全に関すること」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
23	安全管理研修(講義)	11月10日	リスクマネジャー	1名	20分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
24	安全管理研修(講義)	11月16日	全職員	397名	60分	講義 「医療機器安全使用に関する研修」 講師 ㈱ムトウテクノス、フクダ電子株式会社
25	安全管理研修(講義)	12月1日	看護職員復帰者・中途採用者	2名	30分	講義 「医療の安全に関すること」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
26	安全管理研修(講義)	12月7日	看護職員	64名	30分	講義 「静脈注射における安全確保対策の適応と判断の実施」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
27	安全管理研修(第2回異動者研修)	12月7日	新採用医師・コメディカル	16名	40分	講義 「本院の安全管理体制について」「インシデントレポート報告体制について」 講師 医療安全管理部 横見瀬部長、豊嶋専任RM
28	安全管理研修(講義)	12月7日	全職員	409名	60分	講義 「医薬品安全管理に関する研修会」 講師 薬剤部
29	安全管理研修(講義)	2月16日	看護職員復帰者・中途採用者	3名	30分	講義 「医療の安全に関すること」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
30	安全管理研修(講義)	3月17日	全職員	452名	110分	講義 「放射線に関する研修」 講師 放射線部

院内感染対策のための指針

香川大学医学部附属病院は、病院の理念に基づき、感染防止および感染制御の対策に取り組むことで、患者および病院職員に安全で快適な医療環境を提供する。

そのための基本的な考え方を以下に定める。

1. 院内感染対策に関する基本的な考え方

院内感染の発生を未然に防ぎ、感染症発生時に拡大を防止するためには、その原因を速やかに特定し、早期に制圧することが重要である。そのため、院内感染防止対策を職員全員が把握し、病院の理念に則った医療が提供できるよう取り組む。

2. 院内感染対策の推進のために必要な基本方針

職員は、感染対策マニュアルに沿って、手洗いの徹底、マスク、手袋等の着用など、常に感染予防策の遵守に努める。

職員は、自らが院内感染源とならないよう、定期健康診断を受診し、健康管理に努める。感染対策マニュアルは、定期的に見直しを行い、病院職員へ周知徹底を図る。

3. 院内感染対策のための委員会等の組織に関する基本的事項

香川大学医学部附属病院感染制御委員会規定に基づき、感染制御委員会を設置し、院内感染の調査、感染予防の実施、発生時の措置等に関する審議・決定を行う。

院内感染等の発生防止に関する業務を迅速かつ機能的に実行するために感染対策室を設置する。

4. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針

院内感染防止対策の基本的な考え方および防止対策に対する意識の向上を図るために、全病院職員対象の研修会を年 2 回開催するほか、必要に応じて随時開催する。研修の開催結果を記録し、保存する。

5. 院内感染症の発生状況の報告に関する基本方針

耐性菌及び市中感染症等の院内発生に伴う感染拡大を防止するため、感染症発生状況を感染制御委員会及び感染対策室を通じて病院職員に定期的に通知する。また、感染症コントロールシステムにより、随時情報提供を行う。

6. 院内感染発生時の対応に関する基本方針

院内感染が発生した部署の病院職員は、直ちに感染対策室へ報告する。感染対策室は、状況および対応を病院長ならびに感染制御委員会に報告する。

感染対策室および発生部署の病院職員は、速やかに発生の原因を究明し、改善策を立案し実施する。

感染対策室は、発生状況および改善策の実施結果について感染制御委員会、電子メールおよび紙媒体を通じて全職員に速やかに周知する。

7. 患者等に対する本指針の閲覧に関する基本方針

本指針は、感染対策マニュアルおよびホームページに掲載する。